

Come there ; go here の場合

— Deixis —

村田 勇三郎

(1)

まず次の文から始めよう。

I go to school at eight in the morning.

この文は「学校に向かって8時に家を出る (leave home)」のか、「学校に着く (get to school)」のか一見曖昧のようにみえるが「8時に家を出る」の意味である。

まず基本的な事柄をおさえておきたい。

come は話し手と聞き手を含めた談話内で用いられ、着点 (goal) に力点がおかれるが、go は話し手が領域の外へ出ることを意味し起点 (source) に力点がかかっている。次の文を比較されたい。

(1) He comes to school at eight. (彼は8時に学校に来ます)

(2) He goes to school at eight. (彼は8時に学校に行きます)

つまり come to school at eight は到着時 (arrival time) を示し、go to school at eight は出発時 (departure time) を示すのが一般的である。同様に、

(3) He came home around midnight.

(4) He went home around midnight.

(3) は「家に着いた」時間 (arrival time) を示し、(4) は例えば彼が出席していたパーティーを退出した時間 (departure time) を指し家路についたことを意味する。また次の文を見られたい。

(5) He came to Japan from England in 1965.

(6) He went from England to Japan in 1965.

come が着点を含意し、go が起点を含意するという基本的な意味は (5)、(6) の前置詞句の語順の相違によって容易に理解できる。

I go to school at eight. は話し手の自宅の玄関先での発言であろうと、電話で聞かれた What time do you usually go to school? への返事であろうと、やはり「8時に家を出る (leave home)」の意である。次にまとめて整理しておこう。

(7) I will go there tomorrow.

(8) John will come here tomorrow.

(9) I will come there tomorrow.

(10) *John will go here tomorrow.

(7) ~ (10) にあたる日本語は次の通りである。

(7)' 私は明日そこへ行きます。

(8)' ジョンは明日ここに来ます。

(9)' *私は明日そこへ来ます。(「明日そちらへ参ります」と解するなら日本語として容認される。下記の[B] (iii), (iv) 参照)

(10)' *ジョンは明日ここへ行きます。

日本語では (9)' (10)' のようにはいわない。英語では (10) は非文であるが (9) は文法的に容認される。何故だろうか。それは日本語の「来る」と英語の come の用法上の相違に起因するのであるが、何故英語では (9) の come there が容認されるのであろうか。次を見られたい。

(11) Mary was in Boston on January 15. She went to New York the next day.

(12) Mary was in Boston On January 15. She came to New York the next day.

(13) Mary is in Boston now. She will go to New York tomorrow.

(14) Mary is in Boston now. She will come to New York tomorrow.

go と come の基本的用法は次の通りである。

[A] go の場合、伝達時にも到着時にも話し手は到着点にいない。

[B] come の場合には次の4通りの場合がある。

(i) 伝達時に話し手は到着点にいる

(ii) 到着時に話し手は到着点にいる

(iii) 伝達時に聞き手は到着点にいる

(iv) 到着時に聞き手は到着点にいる

(i), (ii) は I came here yesterday., (iii), (iv) が I'll come there tomorrow. の場合である。

英語の here, there が伝達時に話し手がいる場所 (here), いない場所 (there) を指しているのは日本語と同じであるが、これらの here, there を come, go と共に用いると、次のようになる。

(15) Go there at five.

(16) *Go here at five.

(17) Come here at five.

(18) Come there at five.

これらは命令文であるが、動作をする人、つまり動く人は聞き手の you である。here, there は到着点を示す。(16) では伝達時に話し手は到着点にいることを示すのに go は[A]の条件によって伝達時に話し手が到着点にいないことになる。(15) (18) で動く人は聞き手の you であるから、この聞き手が到着点に既にいることはありえないが、[B] (iii) の条件、つまり伝達時に聞き手は到着点にいるということは、動く人が聞き手であるということと矛盾しない。伝達時に話し手が到着点にいないのに聞き手はそこにいるのであるから、(9), (18) は話し手と聞き手が直接面と向かって話し合っている対話でなく、電話とかメールによる会話ということになる。

(2)

日本語文法には「こそあど体系」があり「こ」は話し手に近接しているものを指し、「そ」は聞き手に近いもの、「あ」は話し手、聞き手両方にとって遠いものを指すというのが今日の通説である。「ど」は疑問詞である。cf. 「これ、こっち、こちら、ここ；それ、そっち、そちら、そこ；あれ、あっち、あちら、あそこ；どれ、どっち、どちら、どこ」

(19) 「東京は今日晴れていますが、そちらはどうですか」

(19) は例えばロンドンにいる友人に国際電話をしている場合、遙か彼方に離れていようとも「あちらはどうですか」とは言わない。

英語には「そ」と「あ」の区別を表わす指示詞、副詞がないので、there だけで「そちら」、「あちら」いずれをもまかなっている。Levinson (1983, P. 80) はこのことについて触れている。

(20) Although *there* basically means 'distal from the speaker's location at CT, it can also be used to mean 'proximal to addressee at RT'. Thus, in non-anaphoric uses,

"How are things *there*?"

does not generally mean 'how are things at some place distant from the speaker', but rather 'how are things where the addressee is'.

(there (あそこ, あちら) は基本的には「発話時における話し手の場所から離れている」を意味するが、「受信時に聞き手にとって近い」を意味するにも there は用いられる。例えば非前方照応的な用法で

「そちらは如何ですか」

という発言は「話し手から離れた所で事態は如何ですか」を一般に意味しているのではなく、「聞き手のいるところで事態は如何ですか」と言っているのである。) ちなみに CT は Coding Time, RT は Receiving Time を示す。

つまり、日本語で「そちらはいかがですか」にあたる。「あちらは如何ですか」とは言わないのは言うまでもない。

ところで話を come there という語結合に戻す。

Fillmore (1997. p. 85) は次のようにいっている。

(21) In this case, the destination is understood as the place where the decoder is at coding time. If I say that I'll come there right away, what I have to be talking about is the place where *you* are now. (この場合、話し手の伝達時に聞き手が既に行き先にいると理解される。I'll come there right away. (すぐそちらに参ります) という文では there (そちら) に聞き手である you が今既にいるのである)

(9) が許容される条件として話し手 (I) が「そちら」に行く時に、聞き手が今「そちら」にいるという前提が必要となる。要するに「そこ」にいる聞き手にとって、話し手の 'I' は「そこ」に来ることになるわけである。

次の (22), (23) は Huddleston-Pullum (2002, p. 1553) からの例である。

(22) If you don't be quiet, I'll come over there and sort you out.

(おとなしくしないと、そちらに行ってこらしめますよ)

(23) I met Ed in Cairo. He had come there after graduation in 1988 and was working for a firm of stockbrokers.

(私はカイロでエドに逢った。エドは 1988 年卒業後カイロにやっけてきて株式仲買人の商社で働いていた)

(22) では聞き手のいるそちら (there) に話し手が行く様を頭に描いており、deictic (直示的) 'there' であり、(23) では話し手がこの発話を述べた時、話し手もエドもカイロにいたので、come といっても何ら不自然ではない。(23) は既出の Cairo を受ける anaphoric (前方照応的) 'there' である。

(24) In the course of the evening a note was handed in from Mrs Campbell of Jura House saying she had heard of our arrival and as she was sure there was no comfort in the Hotel she hoped we would come there in the morning and stay with them while we were on the island, assuring us also that she would do all in her power to further the course for which we had come. —BNC.FTT. 1406 (その日の夕方ジュラ館のキャンベル夫人から私達が到着した通知を受けたという知らせが届いた。

ホテルには快適なものは何もないから、朝ホテルにやっけて私達が島にいる間彼等と一緒に過ごして欲しいということだった。そして私達がやっけてきた目的を更に促進すべく彼女は出来るだけのことを致しましょうと私達に云った。) come there の there は Campbell 夫人の滞在しているホテルを指している。

(25) To her shame, she 'd postponed her departure to Boredeaux until the last possible moment, hanging round Les Hiboux, hoping against hope that he would come there to find her — ; to say a formal goodbye at least, even if she could hope for nothing else, she'd thought achingly. — BNC. HH 8.3624. (お恥ずかしいことに彼女は最後のぎりぎりまでボードー行きを延期しルヒボウあたりをぶらぶらしていた。彼が彼女を見つけ、少なくとも正式の暇乞いを云うためルヒボウへやっけてくだろうと万が一の望みをかけていた。彼女は他に何も望むことが出来ないとしても苦々しく思っていた。) there は勿論女性がのらりくらりしていた Les Hiboux の街を受ける。

(3)

通例 go は着点 (goal) としての here とは共起しない。

(26) *They went here last year too.

go が着点 (goal) としての here と共起する特殊な例は地図上の或地点を指差しながら、発言する場合である (Huddleston-Pullum. 2002. p.1553)。

(27) Which way do we go here? —BNC. CKB. 3753 (どの道を通して私達はここに行くのですか)

(28) Is anyone going to decide which way the cars are going here!

(車はどの道を通してここへ行けるのか誰か言えますか)

(29) What are we going here for? (何ゆえに我々はここに行くのか)

(30) Many of the students go here to dine, and are also accustomed to assemble together in the evening. — BNC.B 2 W. 794. (学生達の多くは食事のためここへ行きます。学生達はまた夕方いつも一緒に集まります)

次の文では go は here だけにかかるのではなく here and there (あちこち) にかかるのである。

(31) He used to go here and there.

次のような着点 (goal) を示す here の例に出会った。

(32) We're not talking about individual members saying I wanna go here or I wanna go there. — BNC. HDU. 158. (ここへ行きたいとかあそこに行きたいと勝手なことを云っている会員のことを云っているのではない)

(33) Allen, my son, wanted to go here to the Catholic school; I told my husband why not? — J.C. Oates, 'In the region of ice.' (息子のアレンはこのカトリックの学校へ行きたかった。私は夫にいいですねと云った)

文中の here は go here と続くのではなく、今話題にしている「このカトリックの学校」here to the Catholic school 全体が1つの意味単位をなして go にかかっていると思われる。

日本語の「どの、こうの」「こうの、ああの」に類似した英語表現もある。

(34) It was Cal this, Cal that. Cal says this, Cal and I did that — Ann Tyler, 'Teenage Wasteland' (電話の中味はキアルがこうの、キアルがああのだった。キアルがこう云い、キアルとわたしがああやっただでした) 担任のエバンズ先生が電話でキアルのことをがみがみ責めているのである。

(35) Do this, do that, go here, go there. — BNC. C 8 E. 753. (こうしたり、ああしたり、こっち行っ

たり、あっち行ったり勝手なことをしてよい)

Let's go there. とはいうが, *Let's come there. とはいわないのも, Let's といった場合, 聞き手 (you) も含まれているのに, come there といえば聞き手は先方 (there) にいるはずだから矛盾が生ずる。

(36) She 'll go there to meet you.

(37) She'll come there to meet you.

(36) の発話時に you はまだ there にいないが, (37) の発話時では you は既に there にいるのである。

(38) He'll go to the office to pick me up.

(39) He'll come to the office to pick me up.

(38) は話し手が発話時に会社にはいない場合, (39) は話し手が発話時に会社にいる場合に「私を車で迎えに会社に来てくれる」意である。

(40) Sam couldn't come to the coronation of Queen Elizabeth.

(40) では話し手なり聞き手はエリザベス女王の戴冠式の行なわれた時ロンドンにいたことになる (McCawley 1998. p.746)。

(41) He'll come there at dawn.

この文では He の到着時に聞き手 (you) がそこ (there) にいるか, 話し手 (I) がそこ (there) にいるかいずれとも解される。

(42) We'll go there at dawn. (夜明けにそちらに参ります)

(43) We'll come there at dawn. (夜明けにそちらに伺います)

(43) では聞き手を含んでいない。聞き手は先方 (there) にいるのである。(42) の we は inclusive 'we', (43) の we は exclusive 'we' にあたる。

(44) He'll go there right away.

(45) He'll come there right away.

(45) では聞き手はこの文の発話時に「そこ」(there) にいることになる。

(46) I'll come there right away. (すぐそちらに伺います)

(47) I'll go there right away. (すぐ行きます)

(46) は発話時に聞き手がそこにいる場合であり, (47) は聞き手がそこにはいない場合である (Fillmore.1997. pp.80-89)

この Fillmore (1997) の論文集は Fillmore が以前いろいろなところで発表したものをまとめたものである。英語圏ではドアにノックがした時, "I'm coming." というが, スペイン人は "Vengo." (lit. 'I'm coming') とはいわず, "Voy." (lit. 'I'm going') というそうである (McCawley 1998. p.754)。

References :

Clark,E.V. (1974) "Normal States and Evaluative Viewpoints." *Language*. 50. 316-332.

Fillmore, C. (1966) "Deictic Categories in the Semantics of 'Come'." *Foundations of Language*. 2. 219-227.

_____. (1997) *Lectures on Deixis*. CSLI Publications. Lecture notes. No.65. Stanford : California.

Huddleston R. and G.K. Pullum. (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge : Cambridge University Press.

Levinson,S.C. (1983) *Pragmatics*. Cambridge : Cambridge University Press.

Lyons, J. (1977) *Semantics*. 2. Cambridge : Cambridge University Press.

_____. (1983) "Deixis and Modality." *Sophia Linguistica*. 12. 77-117.

McCawley, J.D. (1998) *The Syntactic Phenomena of English*. Chicago: The University of Chicago Press.

資料 (コーパス)

COBUILD (= Collins Birmingham University International Language Database)

BNC (= British National Corpus)

(元大妻女子大学教授 立教大学名誉教授)